

小2 お話、大すき 「こんなお話を考えた」

研究主題 「確かな国語力を育むための国語教育の在り方」
ー 書くことを楽しみ、書く力を育てるための指導の工夫 ー

日立市立滑川小学校 志村 歩美

1 はじめに

わたしたちが生活を送る中では、自分の思いや考えを表現する場が多くあり、それを上手に表現することは、豊かな人間関係をつくる上でも大切なことである。学習指導要領にも、『伝え合う力を高める』とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めることである。」とあるように、自分の伝えたいことを言語を通して表現する力が必要となってくる。

第2学年の児童は、文章を書くことにも慣れ、作文などの長い文章を書くこともできるようになってきている。しかし、書くことに対して苦手意識をもっている児童も多い。これは、文の順序を整理したり、文と文の続き方を考えたり、間違いのないように正しく書いたりすることができていないことに起因する児童がほとんどである。また、苦手意識から、書くこと自体に苦痛に感じている児童もいる。

そこで、書くことを楽しめるような学習の機会を設定し、文章を正しく書く力を身につけさせたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 児童に、自分だけの世界に1冊の絵本を作るという目的意識をもたせ、見通しをもった学習を展開すれば、学習への関心を高め、意欲をもって取り組むことができるであろう。
- (2) 場面の様子や人物の気持ちについて想像しながら書いていけば、自分の思いや考えが込められたお話が完成するであろう。
- (3) 自分の書いた文章を読み直したり、言葉を付け加えたりする活動を繰り返すことで、文章を正しく書く力が身につくであろう。
- (4) 友だちと話し合ったり、読み合ったりする活動を通して、新たな表現の工夫に気が付き、作品をよりよくしていこうとする意識が高まるであろう。

3 実践事例

(1) 学習指導案

第2学年2組 国語科学習指導案

指導者 志村 歩美

1 単 元 お話、大すき 「こんなお話を考えた」

2 目 標

- ① 挿絵をもとに、楽しみながらお話作りに取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
- ② 物語の簡単な組み立てを考えながら、文と文の続き方に注意して書くことができる。(書くこと)
- ③ 場面の様子や人物の気持ちについて、想像を広げながら読むことができる。(読むこと)
- ④ 句読点の打ち方やかぎ(「 」)の使い方を理解して、文章の中で正しく使うことができる。(言語事項)

3 単元について

本単元では、「読むこと」と「書くこと」の領域を複合した指導を中心としており、「書かれている事柄の順序をとらえながら読んだり書いたりすること」を主なねらいとしている。3枚の絵の内容をうまくつないでお話を作っていく中で、時間的な順序や登場人物の行動・様子・会話を考え、「はじめ・中・おわり」という簡単な組み立てを考えて書くことを身に付けることができる単元である。

本学級の児童は、読書が好きな児童が多く、図書の時間には、読書を楽しんでいる。週に1度の朝の読み聞かせも、お話の世界に入り込み、長めのお話でも飽きずに集中して聞くことができる。一方、書くことに対しては、苦手意識をもっている児童が多い。「今週のニュース」や「かんさつ名人になろう」など「書くこと」の学習を通し、書きたいことや伝えたいことを書く学習を進めてきている。また、行事や生活科での体験・観察の後に短作文で書くことを日常的に行っている。これらの学習を通して、書くことや伝えたいことを見つけたり、簡単な話の組み立てを意識したりできるようになってきている。しかし、話の順序の展開については、意識はしているものの、その必要性や表現の仕方までの理解には至っていない。また、決められた順序を考えながら書くことに抵抗がある児童も見られる。

児童の実態調査について

(平成22年10月29日実施 第2学年2組28人)

項目		ア	イ	ウ	エ
国語の学習は楽しいか		8	17	1	<u>2</u>
楽しいと感じるとき	読書をしているとき	16	7	3	<u>2</u>
	作文を書いているとき	12	5	<u>5</u>	<u>6</u>
話す順序に気をつけているか		15	13	0	0
書く順序に気をつけているか		18	8	<u>2</u>	0

ア あてはまる イ 少しあてはまる ウ 少し違う エ 全然違う

そこで、本単元では、3枚の絵を見て自分で想像したことを大切に、「はじめ・中・おわり」の話の展開の順序を自由に選択させ、学習を進めていきたい。順序が決まった上で、場面の様子や人物の気持ちについて想像しながら書いていけば、自分の思いや考えが込められたお話が完成すると考える。お話を書く前には、会話について二人組で会話文の練習をしたり、お話メモを書いたりして、見通しをもって学習に取り組めるように指導していきたい。

4 学習の流れ（13時間扱い）（時の○は本時）

次	時	学習活動	評価の観点
1	1	ブックトークを開き、読んでみたい本を選ぶ。	読み聞かせを楽しんでいる。(観察①③)
	2・3	本を選んで読む。	おもしろそうな本を選択し、選んで読もうとしている。(観察・読書カード①③)
2	1	学習の見通しをもつ。	お話作りを知り、学習の流れや手順を理解して、興味をもって取り組もうとしている。(観察①③)
	2	絵を見てさまざまな場面を想像する。	登場人物が何をしているところかを、絵を見て想像している。(発表①③)
	3	作例を読み、表現の工夫を見つける。	表現の工夫やお話作りのヒントを見つけることができる。(発表③④)
	4	お話の構想を立てる。	お話の順序を考え、簡単な構想を考えることができる。(ワークシート②)

	5	「はじめ」の場面を書く。	事柄の順序に気をつけながら、それぞれのお話を書くことができる。 (ワークシート②)
	⑥	「中」の場面を書く。	
	7	「おわり」の場面を書く。	
	8	レイアウトを考え、絵をかいて清書をする。	3つの場面をつなげ、絵や表紙を工夫して作品に仕上げている。 (作品②)
	9	後書きと作者紹介を書き、表紙を作る。	
3	1	作品を友だちと読み合い、感想を書く。	友だちの作品のよさに気づき、これからの学習に生かそうとしている。 (感想カード①③)

5 本時の学習

(1) 目標

順序を考えながら文の続き方に注意して「中」の文章を書くことができる。

(2) 資料・準備

絵カード、お話メモ、ワークシート

(3) 展開

学習課題・内容	教師の働きかけ・評価
1 学習課題をつかむ。 文しょうのつづき方に気をつけて、「中」の文しょうを書こう 2 絵カードを見ながら、「中」の文章を考える。 (1) お話メモに書くことを確かめる。 ①どんなことをしたか。 ②どんなお話をしているか。 (2) 考えたことをお話メモに書く。 ①どんなことをしたか。 ・おしゃべりをしている。 ・おいかけっこをしてあそんだ。 ・小鳥がおうえんしてくれた。 ②どんなお話をしているか。 ・「これから何をしようか」 ・「〇〇、あぶないよ。」 ・「がんばれ。つかまるな、△△」 (3) お話プリントに「中」の文章を書く。	・お話メモを見ながら、絵カードの順番を振り返り、自分が書いていくお話の展開について確かめる。 ・「はじめ」に書いた文章を振り返り、メモに書いていくことについて確かめ、活動の見通しがもてるようにする。 ・書き出すことが見つからないと考えられるA児やB児には、一緒に絵カードの場面を話し合い、書き出すきっかけがつかめるようにする。 ◎ お話メモには、五感を意識した見方ができるよう、「くわしくマーク」を提示するとともに、絵カードをよく見るよう助言する。 ・①②の内容を書く際に、文と文の続き方や順序を意識して書いていくように助言する。 (評)「絵カード」をもとに順序を考えながら、文の続き方に注意して「中」の文章を書くことができたか。 (ワークシート②)

3 書いた文章について、読み直しをする。	・「中」が書き終わった児童には、お話を読み返し、さらに加えたい事柄を書き加えていくよう声かけをする。
4 本時の学習を振り返り、次時の学習について確かめる。	◎ 書いたものを読み直し、絵カードと合うように文章が書けているかどうかを確かめたり、記述の間違いがないか確かめたりすることで、文章を読み返すことの必要性に気付かせる。 ・本時の活動について自己評価する中で、文と文の続き方に気をつけて考えることができたかについても確かめ、次時への意欲を高める。

（２）指導の実際

① 学習への意欲をもたせるための工夫

ア 単元導入の工夫

児童は普段から絵本に親しんでいるが、導入でブックトークを開き、絵本作りに対して意欲的に取り組めるようにした。

※ブックトーク・・・一定のテーマを立てて一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介すること。その本の面白さを伝え、読んでみたいという気持ちを起こさせることを目的とする。

イ 目的意識をもたせるために

3枚の絵カードを並び替えることで、「はじめ・中・おわり」の話の展開の順序を自由に選択させた。順序を選択することで、自分だけの世界に1冊の絵本を作るという目的意識をもたせるようにした。また、手本となる手作りの絵本を提示し、見通しをもって取り組めるようにした。

ウ 学び合いの工夫

本時の訪問指導の後、児童が互いに助言をする場を設け、次時の「おわり」の文章を書くようにした。「はじめ・中・おわり」の展開が同じ児童同士を3～4名ずつのグループとし、互いの文章を読み合い、お話の内容へのアドバイスをしたり、誤字・脱字、文のねじれなどを指摘し合ったりするようにした。

展開（訪問指導後に一部訂正）

学習課題・内容	教師の働きかけ・評価
1 学習課題をつかむ。 文しょうのつづき方に気をつけて、「おわり」の文しょうを書こう	・お話メモを見ながら、絵カードの順番を振り返り、自分が書いていくお話の展開について確かめる。

2 話の展開の同じ児童同士（3～4名）でグループになり、絵カードを見ながら、「おわり」の文章を考える。 （1）お話メモに書くことを確かめる。 ①どんなことをしたか。 ②どんなお話をしているか。 （2）グループ内で、「はじめ」「中」までの文章を読み合う。 （3）考えたことをお話メモに書く。 ①どんなことをしたか。 ・おしゃべりをしている。 ・おいかけっこをしてあそんだ。 ・小鳥がおうえんしてくれた。 ②どんなお話をしているか。 ・「これから何をしようか」 ・「〇〇、あぶないよ。」 ・「がんばれ。つかまるな、△△」 （4）お話プリントに「おわり」の文章を書く。	・「中」に書いた文章を振り返り、メモに書いていくことについて確かめ、活動の見通しがもてるようにする。 ・書き方の表現や内容で、よいと思うところがあれば、まねをしてもよいことを伝える。 ・グループ内の友だち同士で、絵カードの場面について話しながら進めてもよいことを伝える。 ◎ お話メモには、五感を意識した見方ができるように、「くわしくマーク」を提示するとともに、絵カードをよく見るよう助言する。 ・①②の内容を書く際に、文と文の続き方や順序を意識して書いていくように助言する。 （評）「絵カード」をもとに順序を考えながら、文の続き方に注意して「おわり」の書くことができたか。 （ワークシート②）
3 書いた文章について、読み直しをする。 （1）自分の文章を読み直し、訂正や付け加えをする。 （2）グループの友だち同士で文章を読み合い、アドバイスをし合う。 ・字の間違い ・字の脱け ・文の意味が通らないところ ・上手だなあと思ったところ 4 本時の学習を振り返り、次時の学習について確かめる。	・「おわり」が書き終わった児童には、お話を読み返し、さらに加えたい事柄を書き加えていくよう声かけをする。 ・アドバイスをもらって直すとよりよい文章になることを全体指導で伝え、互いによりよい作品を作ろうとする意識を高める。 ◎ 書いたものを読み直し、絵カードと合うように文章が書けているかどうかを確かめたり、記述の間違いがないか確かめたりすることで、文章を読み返すことの必要性に気付かせる。 ・本時の活動について自己評価する中で、文と文の続き方に気をつけて考えることができたかについても確かめ、次時への意欲を高める。

② 基礎的・基本的な内容の定着を図るために

ア 学習過程の工夫

児童が段階を追って表現活動ができるよう次の順序で学習をすすめた。

(ア) 絵カードをよく見る

まず、絵カードに色をぬりながら場面の様子を想像させた。色をぬることで、絵の細かいところにまで意識し、想像をふくらませるようにした。

(イ) 作例を読み、表現の工夫を見つける

教科書の作例を読み、会話の取り入れ方や、主人公以外の登場人物、まわりのようすなどの書き方の工夫を見つけ、お話作りの参考にするようにした。

(ウ) 話の展開を考える

絵カードを並び替えながら、お話の順序を考え、簡単な構想を書くようにさせた。この際、次の絵へのつながりに気をつけるように助言した。

イ 「書くこと」への工夫

お話を考える際、どのようなことを書けばよいかが明確になるように「書くときのポイント」を提示し、いつでも確かめながら書けるようにした。(資料1)

ウ お話メモ・プリントの工夫

お話メモ(資料3)には五感を意識した見方ができるよう「くわしくマーク」を提示し、マークをチェックしながら確認できるようにした。また、お話プリント(資料4)には、付け足しや訂正ができるスペースをつくり、推敲しやすいようにした。

4 研究の結果

(1) 仮説1について

自分だけの、世界に1冊の絵本を作るという目的意識をもたせて学習したが、お話を想像する段階から、文章を書き、絵や表紙をかいて絵本にするまで、継続して意欲的に取り組むことができた。普段、文章を書くことに苦手意識をもっている児童も、想像をふくらませ、次々と文章を書くことができていた。

(2) 仮説2について

場面の様子や人物の気持ちについて、じっくりと想像しながら書いていったことで、自分の思いや考えが込められたお話を書くことができた。また、五感を意識したことによって、より詳しく、自分だけが想像した内容の文章を書くことができた。

(3) 仮説3について

自分の書いた文章を読み直したり、言葉を付け加えたりする活動を繰り返すことで、送り仮名をはじめ、より適切な表現に気付くようになった。自分がよく書き間違えてしまうところも分かり、「はじめ」「中」「おわり」と書き進めていくうちに、気をつけて書く姿が見られるようになった。また、この学習の後、他の場面でも、書いたら読み返すという習慣が付き、文章を正しく書く力が身につけてきた。

(4) 仮説4について

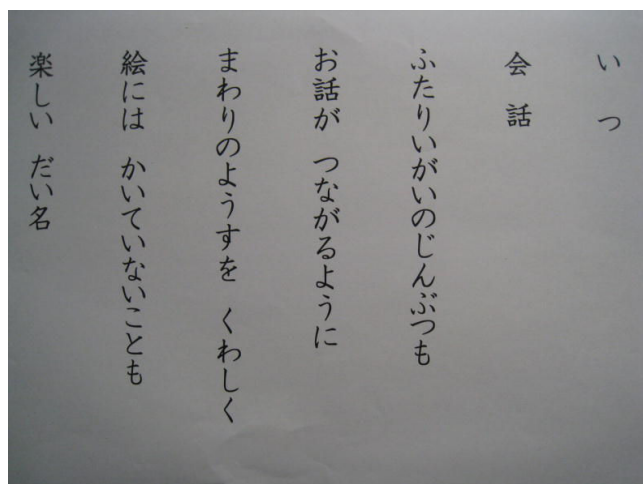
グループの友だちと話し合ったり、読み合ったりする活動を通して、自分にはない表現の工夫に気付き、よいところを真似したり、参考にしたりすることができた。これは、作品をよりよくしていこ

うとする意識が高まったためと考えられる。また、友だちの文章を読んで、誤字・脱字、文のねじれなどを指摘することもできるようになった。中には、内容についてもアドバイスをしたり、なかなか書けない友だちと一緒に考えたりする児童もいた。互いによりよくしていこうという態度が育ってきている。(資料5)

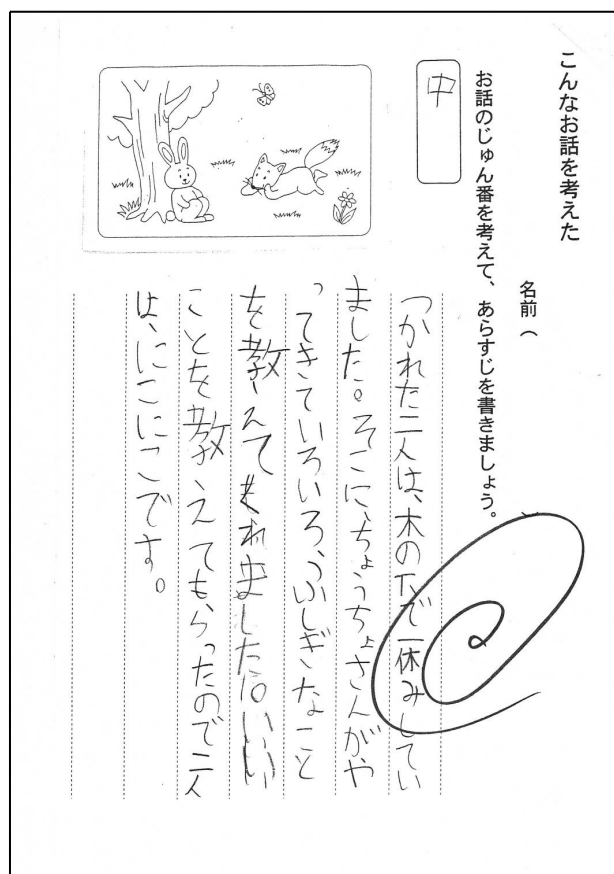
5 今後の課題

今回、「書くこと」が好きな児童はもちろん、「書くこと」に対して苦手意識をもっていた児童も意欲的に、楽しく取り組むことができた。これは題材が「お話作り」という子どもにとって魅力的なものであったからだと考えられる。今後、引き続き「書くこと」を楽しいと思えるようにするには、魅力的な題材を設定するとともに、「書く手順」や「書くポイント」をしっかりと提示し、何をどのように書けばよいのかを明確にするなどの工夫をすることが大切だと思われる。

また、友だち同士で話し合ったり、アドバイスをしたりする場面を取り入れたことは、表現力を高めるために大変有効であったと考えられる。したがって、今後も「学び合い」の場を多くもち、意見の交換をしたり、助言をしたりする機会を充実させていきたい。そして「学び合い」を通して、友だちの考えを受け入れ、自分の意見もしっかりと伝えられる表現力をもち、互いに高め合う児童を育てていきたいと思う。



資料1 書くときのポイント



資料2 児童のワークシート (あらすじ)



資

料5 学び合いのようす



資料6-1 児童作品（表紙）

資料6-2 児童作品（本文）



資料7 作品を読み合う場面ようす